



## XML形式のデータを文字列型の変数に出力するには

XML形式のデータを文字列型の変数に出力するには、XmlMapオブジェクトのExportXmlメソッドを使用します。引数Dataに出力先の文字列型(String)の変数を指定します。ExportXmlメソッドも、Exportメソッドと同じように、出力結果をXIXmlExportResultクラスの定数で返します。

たとえば、XMLデータを、文字列型の変数myXMLDataに格納するには、次のように記述します。なお、文字列型の変数に格納されたXMLデータの内容を確認するには、「Debug.Print XMLデータを格納した変数名」と記述してイミディエイトウィンドウに出力します。

**サンプル書** 16-3\_003.xlsm

```
Sub XML形式で文字列型の変数に出力()
    Dim myResult As XIXmlExportResult
    Dim myXMLData As String
    myResult = ActiveWorkbook.XmlMaps("orderDataXmlMap").ExportXml(Data:=myXMLData)
    If myResult = xlXmlExportSuccess Then
        MsgBox "正常に出力されました。"
    ElseIf myResult = xlXmlExportValidationFailed Then
        MsgBox "データの内容がXMLスキーマの定義と一致していません。"
    End If
    Debug.Print myXMLData
End Sub
```

## XML形式のファイルを読み込むには

### オブジェクト.Import(URL, Overwrite)

#### ▶ 解説

XML形式のファイルブックを読み込むには、XmlMapオブジェクトのImportメソッドを使用します。オブジェクトには、ブックとXMLスキーマの対応付けを表すXmlMapオブジェクトを指定します。Importメソッドを実行すると、引数Urlに指定されたXMLファイルが開いて、入力されている各要素のデータが、対応付けられているセルやテーブルの列に読み込まれ、Importメソッドは、その読み込み結果をXIXmlImportResultクラスの定数で返します。

#### XIXmlImportResultクラスの定数

定数	値	内容
xlXmlImportSuccess	0	XMLファイルが正常に読み込まれた
xlXmlImportElementsTruncated	1	ワークシートに対してXMLファイルが大きすぎたため、あふれたデータは切り捨てられた
xlXmlImportValidationFailed	2	XMLファイルの内容が指定されたXMLスキーマの定義と一致していない

#### ▶ 設定する項目

**オブジェクト** ……XmlMapオブジェクトを指定します。

**Url** ……読み込むXML形式のファイル名を指定します。パスを含めて指定することができます。

**Overwrite** ……既存のデータを上書きするにはTrue、上書きしない場合はFalseを指定します。省略した場合はFalseが指定されます(省略可)。

#### エラーを防ぐには

読み込みたいXMLファイルの内容が正しく記述されていないと、XML解析エラーが発生します。

- 1 マクロの基礎知識
  - 2 VBAの基礎知識
  - 3 プログラミングの基礎知識
  - 4 セルの操作
  - 5 ワークシートの操作
  - 6 Excelファイルの操作
  - 7 高度なファイルの操作
  - 8 ウィンドウの操作
  - 9 リストのデータ操作
  - 10 印刷
  - 11 図形の操作
  - 12 グラフの操作
  - 13 コントロールの使用
  - 14 外部アプリケーションの操作
  - 15 VBA関数
  - 16 そのほかの操作
- 付録